

2019年度 学校関係者評価報告書

実施日：2020年2月19日

2020年3月

独立行政法人国立病院機構

大阪南医療センター附属大阪南看護学校

学校関係者評価委員会

2019年度 大阪南医療センター附属大阪南看護学校 重点目標

- 重点目標 1 基礎看護技術の確実な習得に向けた支援
- 重点目標 2 「生活者」としての人間理解を促す教育の実践
- 重点目標 3 授業研究の実施によるより良い授業づくり
- 重点目標 4 実習施設、実習指導者との連携強化
- 重点目標 5 応募者数の増加を目指した広報活動
- 重点目標 6 大阪府下病院への就職率の向上
- 重点目標 7 計画的な教材購入および設備整備

以上、7つの重点目標の取り組みおよび結果について、学校関係者評価委員会で報告し次頁以降の評価を受けた。

<学校関係者委員>：教育交流に係る連携大学 教授

看護専門学校（3年課程）教務主任

臨地実習施設の看護管理者

学生の出身高等学校の教諭

同窓会副会長（卒業生）

I. 重点目標について

重点目標1 基礎看護技術の確実な習得に向けた支援

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・演習前の教員間での技術指導内容の調整 ・技術評価の内容検討と実施前・中・後の調整および学生へのフィードバック ・技術習得に向けた個別指導の徹底（放課後や長期休暇の活用） ・実習場において技術を経験させるための実習指導者との連携
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6科目において看護技術の評価を実施した。昨年度と比較し合格率が上昇した技術は4科目であった。 ・不合格者へ結果をフィードバック後、必要に応じ演示し個別指導を重ね、全員合格に至った。 ・2年次と3年次に技術経験状況や到達状況の評価を行い実習指導者会で報告し、臨地での経験を促す。また、臨地での内服与薬援助の評価を実施し全員が目標到達できた。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得に向け教員が熱心に指導していることはよく理解した。時間外の指導となれば、教員の負担も大きいですが、継続していただきたい。技術練習の回数を教員が確認し指導していると聞いたが、中途でのフィードバックを効果的に行ってみてはどうか。「練習に積極的に取り組んでいる学生は合格率が高い」などデータ化したものを学生に提示すれば、学習意欲を高めることに繋がる。学生は、今自分がどの位置にいるのか、どの程度練習すれば合格するのかわかっていないため、データ等提示することは効果がある。

重点目標2 「生活者」としての人間理解を促す教育の実施

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で「生活者」としての対象理解の重要性について共通理解し、主要概念やディプロマポリシーに反映させた。 ・実習前研修や演習時に「生活者」を意識した紙上事例を用い、看護展開に活かすよう指導している。また、演習では対象の反応や会話を意図的に設定したロールプレイングを実施した。 ・臨地実習指導において、対象理解のための関連図やカンファレンスで「生活者」としての視点もてるよう指導した。
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で検討したことにより、教員の認識が統一でき指導する際の意識づけができた。 ・主要概念やディプロマポリシーを検討したことにより、教員自身が何を目標として学生指導を行えばよいか明確になり指導に活かすことができた。 ・紙上事例に対象の反応や会話をに入れることにより生活している人として捉えられるようになった。事例設定で、患者や家族の入院前の生活状況を詳しく設定することにより、患者の生活がイメージしやすくなり、必要な看護を考えることができた。 ・教員自身が実習での関連図やカンファレンスを活用し「生活者」としての対象理解につながるよう指導することができた。 ・基礎看護学実習の実習要項を生活者を意識した内容に変更したことにより、対象の生活に関心をもち観察できるようになった。

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・患者を「生活者」として捉える教育に取り組まれているのはとても良い。現在、他の医療職でも生活者としての視点で患者を捉える教育が重要視されている。 ・1年次に他者（自分の大切な人）の1日の生活を知るという課題を与えている。学生は「こんなに問題のある生活をしていたのか」と気付いている。また、「在宅看護論実習」を1年次に計画する方法もある。病院でも退院前後訪問時に学生を同行させているが、生活環境を見ることにより生活者としての視点で捉えることができる。高齢社会だが、高齢者と生活している学生は少ないため、高齢者と接する機会を持たせるようにしている。 ・生活者としての対象を捉えるポイントを整理しておくといよい。高校の進路指導では「自分はどんな視点で人を捉えているか」と問い、気づきを与えるようにしている。学生が興味のある領域（スポーツ施設等）でも、気づくポイントをもって対象者を観ることで気づかせることができる。様々な取り組みを続けてほしい。
-----	---

重点目標3 授業研究の実施によるよりよい授業づくり

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員（11名）実施。授業には教員が複数名参加できるよう業務調整を行い、実施後のリフレクションを行った。 ・教員研修会主催の5校間での公開授業の1名実施と教員全員の他校公開授業への参加。 ・学生による授業評価および教員自身による授業評価の実施。
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が実施した。各回5名から6名が参加した。2名については模擬授業を行った。 ・実施することにより、悩んでいたことが解決できた。他科目とのつながりや実習前研修に関連させていく必要性に気づいた。 ・参加することにより、様々な授業形態や工夫について学ぶことができた。科目間の繋がりが理解できた。教材研究の不足に気づくだけでなく、他教員と教授内容に関する意見交換が行えた。 ・授業案を修正し授業を行うことができた。他科目とのつながりを意識した授業展開が行えた。また、他教員へ相談がしやすくなった。 ・講義終了後の学生による授業評価は、概ね3（4段階評価）評価である。 ・教員自身の自己評価と学生からの評価結果を参考に、次年度に向けた課題把握を行っている。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の授業評価は実施しており改善に向け活用しているが、その改善を学生が見ることができるよう公表することが望まれる。また、学生自身の評価（出席率、予習・復習状況など）も同時に行うとよい。大学のシラバスは、予習・復習時間と講義方法、学ぶ目的、定期試験だけでなく中間評価の内容（レポートや平常点）、事前課題と事後課題など細かく標記している。ポートフォリオの活用など形成的評価を行うことも必要である。

重点目標4 実習施設、実習指導者との連携強化

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設への実習目標等の事前説明を行い、学生のレディネス等伝えている。 ・各教員が担当病棟（他施設含む）の実習指導者との調整および実習指導者以外のスタッフとの指導調整を実施した。
------	---

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学生によるカリキュラム評価を実施し、実習指導の課題を明確にし改善のための検討を行った。 ・実習指導者会の活動としての実習指導案の作成や学生の授業（演習）への参加、実習まとめの会への参加を促し、学校と臨床が共に育てることを意識できるようにしている。 ・実習指導者研修の実施による次期指導者の育成。
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・母体病院は実習指導者会を活用し実習指導に関する情報提供により連携できている。 ・他施設には、事前に担当者が実習目標や内容についての説明を行い指導体制の調整を行っている。また、他施設は担当教員2名が常駐し、病棟の実習指導者と連携をとりながら実習指導を行い、大きな問題なく終了した。 ・実習指導者に学生のレディネスについて事前に説明すると共に、実習中にも情報共有し協力体制をつくり学生個々の到達に応じた指導を行うことができた。 ・実習指導者会の活動として、学生のレディネス把握のための演習参加を実施した。 ・学内で行う実習まとめの会には実習指導者が参加し、学生の実習での学びを共有すると共に助言を頂くことにより学生の達成感にもつながった。 ・実習指導を意図的・計画的に行うために指導案を作成し互いの役割認識が行えた。 ・実習指導者講習会未受講者への実習指導者研修を2回実施し19名参加があった。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導においては、教員と実習指導者が情報共有し相談しながら、機会を意図的に捉え指導を行っている。

重点目標5 応募者数の増加を目指した広報活動

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・募集範囲を拡大した募集要項の発送 ・オープンキャンパス、高校進路指導教諭対象の進路説明会の実施 ・高等学校訪問や業者主催の高校進路説明会に参加 ・大阪府看護学校協議会主催の進路相談会参加 ・看護の日、学校祭、公開講座等の行事を活用した広報 ・ホームページの更新
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・全国へ2600冊発送したが、昨年度の応募者数の8割にとどまった。 ・オープンキャンパスを5回、高校進路指導部対象の説明会を1回実施した。 ・高校訪問19校、業者主催の説明会12回等参加したが、集客率は今年の5割程度。 ・看護の日の行事で卒業校を16校訪問、公開講座には16名の参加があった。 ・毎月ホームページを更新し、行事や学生の近況を報告した。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職を目指す高校生で積極的に学ぶ姿勢のある学生は、大学進学傾向がある。このため、看護学校が応募者数を増加させることは大変難しい。 ・オープンキャンパスを土曜日・日曜日にするとうクラブ活動や大学の相談会と重なる。時期をずらした開催が必要である。また、学生はキャンパスライフの充実を求めているため、学校祭などの行事にどのくらい学校から支援があるのかも興味の高い所である。 ・学生の入学生数が多い高校に個別に募集活動を行うと効果的である。 ・来年度から募集がないこと（閉校となる）は、本当に残念である。

重点目標 6 大阪府下病院への就職率の向上

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次から学生の進路面接を行い、個別指導を行っている。 ・3年次には、担任教員、教育主事、副学校長が面談を行い、進路の決定を支援している。 ・学生個人での病院見学やインターンシップの参加ができるよう情報提供するとともに、意図的に採用情報を提供している。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇を利用したインターンシップや病院見学も全学生が積極的に行った。 ・大阪府下の病院への就職内定者が8割近くとなった。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学生個々の状況を考慮した丁寧な個別指導が実施されている。

重点目標 7 計画的な教材購入および設備整備

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化している教材教具の洗い出し ・計画的な教材教具の購入計画の立案と実行 ・演習等授業に必要な教材の把握と購入 ・学校運営会議や学校評価委員会で教材教具購入の必要性を提示 ・必要な物品購入のための無駄削減
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに購入計画を立案し、パソコン（授業用、教務用）、学籍簿管理システム、技術演習物品、図書や視聴覚教材の更新が必要であり整備した。 ・授業に必要な教材は、年度初めに担当教員からの申し出を教育主事が整理購入した。 ・高額な教材・設備については、学校運営会議や学校評価委員会に購入計画を提出し審議後整備している。 ・在庫管理を行い、消耗品の無駄が無いよう請求でき請求数が半減したのものもある。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教育ためには教材教具の整備が重要であり、計画的に購入計画を立て整備されていることは評価できる。今後も質の高い教育のため整備されることを期待する。 ・無駄の排除については、細かな取り組みとして努力されていることがわかる。

【講評】

- ・全体的に学生への教育の質が維持されていると考える。放課後の実習室開放による技術教育は、教員の負担はあるが今後も継続されることを期待する。職業教育として「できなければならないこと」は「できる」まで支援してほしい。
- ・患者を生活者として理解させるための教育は、大変重要である。1年生の前期（臨地実習が始まる前）に行うことにより、生活者としての人間理解を促せるのではないかと考える。教育内容・教育方法を検討工夫し取り組んでいただきたい。
- ・授業評価は基本的には現状でもよいと思われるが、学生自身の自己評価、学外講師の自己評価を取り入れ、評価方法の検討や、学生へのフィードバックについて検討いただくとより良いと思われる。また、ポートフォリオ等の活用を行い、個々の科目評価だけでなく領域など大きな枠組みで評価することも必要と考える。
- ・学校経営の安定化に関しては、学校独自の取り組みを工夫していくことが望まれる。卒後の新人教育や離職した看護師の再教育を学校が有料で担うという取り組みをされているところもあるため、検

討をされるとよい。以上、全体として、教育の質の向上に尽力されていると考える。